
第 111 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2017 年 10 月 14 日（土） 14:00 - 16:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1401 教室

担当者：村上陽子

「講読：スペイン王立学士院、スペイン語学士院協会(2011)『スペイン語新文法基礎』第 3 部「統語論」
IIIa 単文構造

第 19 章「主語」 pp.190-195」

* Fecha y hora: sábado, 14 de octubre de 2017, de 14:00 a 16:00

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1401

* Encargada: Yoko Murakami

* Lectura de la “Nueva gramática básica de la lengua española: Apartado 19 “El sujeto”, pp.190-195”

★この実施報告では、ワークショップ当日と同様、sujeto を「主部」、predicado を「述部」と表す。

1. 文. 主部と述部 (La oración. Sujeto y predicado)

文は「主部」と「述部」という統語的機能(funciones sintácticas)によって構成される。

(例) 「主部」 La lluvia 「述部」 arrecia.
Eduardo me las ha regalado.
La primavera ha venido tarde.

同書 p.10 では述部に関するより詳細な説明がなされており、その説明に基づくと、上記二つ目の例では ha regalado が「狭義の述部」ということになる。

伝統文法では主部と動作主(agentes)という概念が結び付けられることが多かったが、現代文法においては、caber, descansar, gustar, merecer, sufrir など動作を表さない動詞が用いられている文や、受動文のように、主部が動作主とは一致しない場合があることが示されている。ちなみに受動文の主部は被動作主主部(sujetos pacientes) と呼ばれる。

2. 主部の機能を果たす統語範疇 (Categorías sintácticas que ejercen la función de sujeto)

主部の機能を果たす統語的単位は次のとおりである。

a) 名詞句 (関係詞節独立用法(relativas libres)と定冠詞+関係詞節(relativas semilibres))、代名詞と代名詞を含む(統語的な)句(grupos sintácticos)

これらの統語的単位は動詞に前置することも後置することもできる。

(例) Javier trabaja bien; Falta sal; Quien bien te quiere te hará llorar; Ganará el que mejor juegue.
Nosotras nos oponíamos; Nada de la función me ha gustado.

b) 名詞節 (平叙文(declarativas)、不定詞(construcciones de infinitivo)、疑問文(interrogativas)、感嘆

文(exclamativas))

(例) *Me sorprendió que quisiera venir; No le importa comer cualquier cosa; No se sabe si llegará pronto; No le importa quién era yo; Me gusta cómo expresa.*

前置詞句は主部になれず、*hasta, entre, según* もその例外ではない。

(例) *Hasta los niños protestan; Lo trajeron entre todos; Según tú sostienes/ Según sostienes tú*

3. 統語的位置 主部と限定 (Posición sintáctica. Sujeto y determinación)

主部が動詞に前置する際、主部は指示的表現(expresión referencial)でなければならない。指示的表現とは、固有名詞(nombre propio)、代名詞(pronombre)、限定された一般名詞(nombre común determinado)である。

(例) *Iván ha vencido; Ustedes no estaban allí; Los soldados sofocaron el fuego; *Niños vinieron*

ただし、並列された複数形の名詞句は、並列自体に指示能力(capacidad referencial)があるので、限定されていなくてもよい。(例) *Patronos y obreros coincidieron en la fiesta.*

主部が動詞に後置するのは次の二つの場合である。

a) 特に存在を表す非対格動詞(verbos inacusativos)の能動文では、限定されない名詞句を主部とする場合。(例) *Brotaba agua en abundancia; Llegaban clientes todos los días.*

【参考】 非対格動詞とは (p.22)

- ・自動詞で、存在(presencia)、出現(aparición)、出来事(acaecimiento)を表す動詞 *caer, entrar, llegar, morir, nacer* など。
- ・過去分詞で絶対構文(construcciones absolutas 分詞構文)を作ることができ、名詞を修飾することができる

(例) *Desaparecido el problema, todo volvió a la normalidad; los niños recién nacidos*

その他の動詞では主部を後置させる場合は何らかの限定詞が必要。(例) *Lo abrazó el ministro.*

b) 受動文では、限定詞のない名詞句を主部とする場合。

Han sido observadas deficiencias en la construcción; Ahora apenas se escriben cartas.

【参考】 主部の限定性と位置 まとめ

	前置	後置
限定	○	○
非限定	× 並列名詞句は○	× 非対格動詞は○ 受動文では○

4. 明示主部と非明示主部 (Sujetos expresos y sujetos tácitos)

音声で表現されない非明示主部(sujeto tácito)は動詞と数、人称で一致するので、代名詞的属性を持つ。非明示主部の先行語は前文から復元される。

(例) *Los ladrones actuaron como si Ø estuviesen solos.*

5. 主部と動詞の一致 (La concordancia entre sujeto y verbo)

主部と述部の核は数と人称で一致する。非明示主部の性数は、属辞や述部補語の形容詞や過去分詞に現われる。

(例) *Ø estaban contentas; Ø regresaron cansadas.*

人称の一致 (La concordancia de persona)

- *usted* や *su excelencia* など敬意表現のように文法上の人称と談話上の人称の不一致の場合がある。
- 話者が自分自身を指して使用する語(*uno, el abajo firmante, (un) servidor*)は3人称になる。
- 複数の人称の組み合わせの場合、1人称+2人称=1人称複数、2人称+3人称=2人称複数になる。
- 複数形の人を表す名詞句(*los habitantes, las madres...*)の場合は以下のようなになる。
 - ①話者が、自分自身が含むと考える場合：動詞は1人称複数形になる。
 - ②話者が、聴者が含まれていると考える場合：動詞は2人称複数形(ラ米では3人称複数形)になる。
 - ③話者が自分自身も聴者も含まれていないと考える場合：動詞は3人称複数形になる。

並列された主部の数の一致 (La concordancia de número en sujetos coordinados)

主語の機能を果たす並列された名詞句は、基本的には複数形の動詞と一致する。

(例) *La computadora y la impresora se estropearon esta mañana; Ni él ni su mujer escondieron el dinero.*

例外となるのは以下のような場合である。

a) 話者が並列語句を一つの複合構造であると考えるときは、定冠詞が先頭の名詞に一つだけ付加されている場合も、それぞれの名詞についている場合も単数扱いされる。

(例) *Será autorizada la carga y descarga de mercancías; Les encanta el sol y la playa.*

ただし、動詞に後置される場合、一致する動詞活用形は複数形、単数形のどちらもある。

Les encantan el sol y la playa; Le (faltaba ~ faltaban) tiempo y paciencia.

b) *ni* によって並列される場合は、

①動詞に後置する時は単数形扱いされる。(例) *No llegó la fruta ni la verdura.*

②1人称もしくは2人称が含まれるとき、動詞活用形はその複数形になる。

(例) *No tenemos compostura ni ella ni yo.*

c) 中性の名詞句の並列の場合は単数形の動詞活用形が優勢である(例：*Me gusta lo uno y lo otro.*) が、動詞の意味によっては複数形も見られる(例：*Conviven lo privado y lo público.*)。

d) 名詞節は単数形扱いされる。

(例) *Es preferible que uno salga y que el otro se quede; Me gusta viajar y conocer otras culturas.*

部分構造と擬似部分構造 (La concordancia en construcciones partitivas y pseudopartitivas)

部分構造とは、例えば「*la mitad de* + 名詞句」のように、二つの名詞句から成り、一つ目の名詞句が量を表す名詞や代名詞であり、二つ目の名詞句が対象を具体的に表す名詞となっている構造のことである。この構造を持つ主部は単数形の動詞とも複数形の動詞とも一致する。

擬似部分構造とは、部分構造と同様に二つの名詞句から成るが、一つ目の名詞句が *grupo, montón, puñado* のような集合を表す量化名詞(*nombre cuantificativo*)か、あるいは *especie, género, tipo* のような種類を表す分類名詞(*nombre clasificativo*)となっている構造を持つ名詞句である。擬似部分構造の主部は、量化名詞句が限定されていなければ、単数形の動詞活用形とも複数形の動詞活用形とも一致する。

(例) *Un grupo de estudiantes (recorrió ~ recorrieron) la avenida*
*Este grupo de estudiantes (recorrió ~ *recorrieron) la avenida*

繫辞構文における一致 (La concordancia en las construcciones copulativas)

主部に量化名詞が含まれている場合、(擬似)部分構造の補語が明示されていなくても複数扱いとなる場合がある。(例) *Hubo dos preguntas interesantes. El resto 0 eran tonterías.*

属辞が複数の場合は、主部が中性なら動詞は複数形(例: *Todo eran habladurías.*)となるが、主部が中性でないなら動詞は単数形でも複数形でも可能である(例: *Su mayor ilusión (sería ~ serían) unas vacaciones en el Caribe.*)。

また、定冠詞+関係詞節が *de* を伴って *ser* の属辞になる場合は、関係節内の動詞活用形は3人称複数形になるのが通常である(例: *Tú eres de los que apoyan esa propuesta.*) が、*Tú eres (uno) de los que apoya esa propuesta.* 解釈がされる場合は3人称単数形になることもある。決して、文全体の主部とは一致しない(例: **Tú eres de los que apoyas esa propuesta.*)。